

# 地域医療連携だより

H16.5  
第2号



兵庫医科大学病院

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号  
TEL.0798-45-6111(大代表)  
TEL.0798-45-6001(地域医療室)



## 理念

兵庫医科大学病院は、安全で質の高い医療を行い、地域社会へ貢献するとともに、よき医療人を育成します。

## 基本方針

- 患者の立場に立った医療の実践
- 人間性豊かな、優れた医療人の育成
- 高度で、先進的な医療や医学研究の推進
- 健康増進活動による保健・福祉の推進
- 地域の医療機関との円滑な連携

## ご挨拶

病院長 山村 武平

皆様、こんにちは！この4月から新たに病院長に就任いたしました。どうぞ宜しくお願いいたします。兵庫医科大学病院は、特定機能病院として高度で先進的な医療や医学研究の推進を担った病院ですが、常に患者様の立場に立った安全で質の高い医療の実践を心掛けています。と



くに地域の医師会や医療機関との円滑な連携のもとに、地域社会に貢献することは病院の理念にも掲げており、今後、地域医療室のさらなるグレードアップを図りたいと思っています。具体的には高度に専門分化した臨床各科の情報（専門外来内容や検査・治療成績等）の発信、紹介医への迅速な経過報告と的確な情報の提供を徹底して行うつもりです。

また昨年から開放型病床として、紹介医と共通の患者様の検査・診断・治療を一緒に行う体制を整えています。専門の主治医とともにディスカッションをする中で、お互いに知識・技術を深めることができれば、患者様のみならず医師同士にとっても幸せであると思っています。是非、ご利用ください。

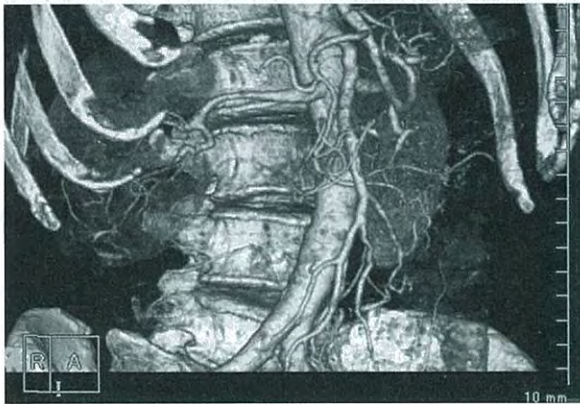
なお、詳細は地域医療室（TEL 0798-45-6001）までお問い合わせください。

## 当院における腹腔鏡手術の現状と特色

創刊号の特集に続き、今回は泌尿器科と産科婦人科における腹腔鏡手術について取り上げました。このページでは、最新の医療や当院における様々な取り組みについて取り上げていく予定です。皆様からのご意見、ご要望をお待ちしています。

### 泌尿器科

現在、泌尿器科領域における腹腔鏡手術としては、副腎摘出術、腎摘術、前立腺全摘術などが日常的に行われており、当院でも副腎摘出術や腎摘術を腹腔鏡下に行っております。開腹手術と比較して最も違う点は傷が小さく、術後の回復や社会復帰が早いことです。



当院では、術前に三次元CTで詳細に検査をしております。図に示しますように、腎臓に分布する動脈系が手に取るように詳細にお解り頂けると思います。最近の画像技術の発達により予定した部位を予定通りに処理することで、手術の安全性が高まり過去3年間に当院で行われた腎・副腎手術では、特に重篤な合併症等は経験しておりません。近い将来ヴァーチャルリアリティを応用したナビゲーション手術やロボット手術がごく一般的なものになるものと予想されますが、最先端技術を応用して地域の方々に尚一層貢献して行きたいと考えております。

(文責 瀧内秀和、島 博基)

### 産科婦人科

婦人科腹腔鏡の歴史は国内で最も長いほうで、最初の腹腔鏡手術は1983年からとなります。この間、精巣女性化症での腹腔内精巣摘除を国内最初に腹腔鏡手術で行うなど、現在までに1000例以上の腹腔鏡手術実績があり、子宮外妊娠、良性卵巣腫瘍は、ほぼ全例、子宮筋腫などの子宮全摘術、筋腫核出術も各々の適応により腹腔鏡手術を選択しています。安全管理としては、全例とも腹腔鏡手術執刀経験10年以上の医師の直接執刀、指導下に行うこととし、幸い1000例に及ぶ手術症例のなかで患者様の後遺症や生命に至るような重大事故はありません。

当科の腹腔鏡手術で特徴的なところは、設備、機器が他の地域病院に比して非常に充実している事があげられます。針状腹腔鏡、各種レーザー、高速吸引洗浄装置、超音波凝固器、ハーモニックスカルペル、リガシユアー、アルゴンビームコアギュレーター、キューサー、セルセーバーなど腹腔鏡手術の最新設備でないものが無いと言うほど整備され、これらを駆使し、手術の安全性、確実性を図っています。

たとえば、子宮外妊娠で腹腔内大量出血ショックの方でも、輸液ルートさえ確保できておれば、腹腔鏡下で、セルセーバーで腹腔内出血を回収輸血しながらリガシユアーで短時間で確実に止血し無輸血で手術を完遂させることもできています。また、針状腹腔鏡はボールペンの芯ほどの太さしかありませんので、これを臍窩内に刺入させ3mmのトロカール、操作鉗子で手術を行いますと、術後半年もたつと術者自身手術痕を見つけれずにとまどうほどで、未婚女性の卵巣嚢腫などの手術などはこのような方法で手術を行っています。

今後の方針としては、世界的に低侵襲手術が適応拡大されていく方向にあり、長い歴史と多数の症例経験で培われた私たちの安全管理のノウハウを生かし積極的に腹腔鏡手術の適応拡大を図り、大学病院の先進的医療推進の使命を果たして行きます。

(文責 辻 芳之)

## 新任教授の紹介



### 内科学 循環器内科 増山 理

平成16年2月より内科学循環器内科を担当させていただいております。私は昭和55年に大阪大学医学部を卒業後、循環器内科学領域、特に心不全の病態解明と治療法の開発を柱に診療・研究を行ってきました。心不全はあらゆる心疾患の終末像であります。心不全の治療法・予防法に関して、今後ともさらに発展させていきたいと考えております。あらゆる循環器内科領域で高い診療レベルを保つことはもちろんであります、特に重症心不全、入退院を繰り返す難治性心不全の治療に際しては先進的な内科的・外科的手法を積極的に導入して、特に阪神地区の地域医療に貢献したいと考えております。

循環器内科学教室は内科学講座再編により、循環器内科と冠疾患・CCU科に分かれました。今後、冠疾患・CCU科と協力し、特に阪神地区の循環器病診療のさらなる発展に邁進したいと考えております。今後とも皆様のより一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



### 内科学 冠疾患・CCU科 大柳 光正

循環器内科は平成16年2月より専門性を重視した講座改変により、内科学 冠疾患・CCU科と循環器内科に分かれ、冠疾患・CCU科を受け持つことになりました。これもひとえに皆様方のご支援ご指導によるものと、心から感謝申し上げます。しかしながら病院の診療は循環器内科として外来・病棟とも一緒に診療していますので従来と同じく循環器内科としてご紹介下されば幸いです。当科は循環器救急疾患(急性心筋梗塞、ショック、不整脈、心不全等)に対し24時間態勢にて治療を行っています。特に急性心筋梗塞は可及的速やかに再灌流療法が必要ですので、常時先生方の緊急の要請に対応し治療に当たっています。(CCU電話 0798-45-6510)。次に不整脈に対し、カテーテルアブレーションやペースメーカー植え込み術を施行し、致死性不整脈に対しては植え込み式除細動器(ICD)を植え込むなど最新の治療を行っています。さらに難治性心不全に対し、両室ペーシングによる最新の治療法を行っていますので、是非ご紹介下されば幸いです。

今後とも変わらぬご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



### 循環器外科学 宮本 裕治

平成16年2月1日より循環器外科(心臓血管外科)を担当しております。私は昭和53年に大阪大学を卒業しすぐに第一外科へ入局し、昭和57年より心臓血管外科を専門としております。臨床の本格的なトレーニングは米国でスタートしました。米国での臨床ライセンスを取得しバファロー総合病院で冠動脈バイパス術を中心とした成人心臓外科、マイアミ小児病院で小児心臓外科、そして最後にピッツバーグ大学で心臓移植と補助人工心臓のトレーニングを受ける機会にめぐまれました。計約4年間の留学後帰国し、大阪大学や関連病院でさらに手術の修練を積み、幸いにも心臓血管外科手術の術者としての経験数は1000例を超えています。こちらでの手術の中で、人工心肺を使用しない冠動脈バイパス術、自己弁温存による弁修復術及び胸部大動脈瘤手術には特に力をいれたいと思っています。また、緊急手術に対応できる体制で地域医療に貢献したいと考えておりますので、何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



## 呼吸器外科学 長谷川 誠 紀

平成16年3月1日より、新設科の呼吸器外科学講座を担当させていただいております。「自分や自分の家族が受けたい医療」を目標に、あくまでも臨床外科医として呼吸器外科診療全般に力を尽くします。肺癌治療では、早期癌では胸腔鏡手術や区域切除術など体への侵襲が低い手術を目指し、進行癌では周辺臓器合併切除や集学的治療をもって根治度を高める手術を目指します。その他、転移性肺癌・縦隔腫瘍・気胸・胸郭変形・手掌多汗症・胸部外傷など呼吸器外科全般が守備範囲です。さらに、ゆくゆくは、肺移植や気管移植など呼吸器外科のフロンティアを広げる医療にも力を注いでいきたいと考えております。

スタッフ6名の小さな科ですが、私自身の目と手が隅々まで行き届くちょうど良い規模であることを利して、筋の通ったハイレベルの専門家チームを構築したいと思っております。私の故郷である西宮において阪神間の地域医療に全力を注ぐ所存でございますので、どうかよろしくお願い申し上げます。



## 内科学 上部消化管科 三 輪 洋 人

平成16年3月16日より内科学講座、上部消化管科を担当させていただいております。私は昭和57年に鹿児島大学を卒業したのち、すぐに東京の順天堂大学内科に入局し、兵庫医科大学にお招きいただき今年3月まで順天堂大学消化器内科に在籍しておりました。入局後、胃のバリウム造影検査で名を馳せた故白壁彦夫教授のもとで消化管診断学を学び、その後ご着任になった佐藤信紘教授から基礎医学の啓蒙を受け、3年ほど米国ミシガン大学に研究員として留学しておりました。私の臨床的興味は胃癌の診断・治療から始まり、最近ではH.pylori感染症や逆流性食道炎などの良性疾患にまでひろがっております。外来患者の半数以上は腹部症状を主訴として来院すると言われておりますが、その6～7割ではその原因は明らかではありません。今後はこれらの患者様に対する系統的な診断・治療法の確立や、さらには症状発現のメカニズムの解明など、日常臨床で頻回に遭遇する疾患に対して科学的理解をより深める努力を行い、これを通じて地域における消化器疾患診療に貢献いたしたいと考えております。ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、どうか宜しくお願い申し上げます。



## 内科学 下部消化管科 松 本 譽 之

平成16年3月より、故下山孝先生の後任として、下部消化管科の部門を担当させて頂いております。

私は、昭和56年に大阪市立大学医学部を卒業後、下部消化管疾患の病態と治療に関する研究を行って参りました。得意分野は、炎症性腸疾患ならびに下部消化管疾患の内視鏡診断と治療です。

当教室は、これまで炎症性腸疾患への血球成分除去療法の開発など全国でも有数の実績を誇っております。この伝統を元に、上部消化管科の三輪洋人教授とも協力し、消化器疾患の診断治療のスタンダード形成を目指して行くとともに、特に今後は、大腸癌などの早期診断と内視鏡治療及び、これまで未知の分野であった小腸疾患への内視鏡検査と治療に力を入れたいと思っております。このため、地域の先生方との密接な連携を重視したいと考えておりますので、お気軽にご利用頂ければと考えております。皆様の温かいご支援とご鞭撻をお願いいたします。

## 内科及び胸部外科の組織変更に係る診療体制のご案内

当院では、病院臨床部門の総合的な改革の一環として、平成13年5月に総合内科を設置し、その後も担当領域を拡充・整備して総合的医療体制のもとでの専門医療体制の確立を図って参りました。この度、更なる拡充・整備を図るため、平成16年4月1日より内科及び胸部外科の組織変更を行いました。総合内科の名称も内科に改めましたので、ご紹介いただく際に、診療情報提供書の紹介先診療科名の記載等、ご協力をお願い申し上げます。

### 【今回変更した診療科】

旧診療科名	新診療科名	紹介状宛先診療科名
循環器内科 循環器	内科 循環器内科	内科 循環器内科 宛
循環器内科 高血圧・動脈硬化	内科 冠疾患・CCU科	
消化器内科	内科 上部消化管科	内科 消化器内科 宛
	内科 下部消化管科	
胸部外科	循環器外科	循環器外科 宛
	呼吸器外科	呼吸器外科 宛

紹介状宛先診療科名	診療部長名	紹介状宛先診療科名	診療部長名
内科 循環器内科	増山 理 (マスマトオル)	循環器外科	宮本 裕治 (ミヤモトユウジ)
内科 循環器内科	大柳 光正 (オオヤナギミツマサ)	呼吸器外科	長谷川誠紀 (ハセガワセイキ)
内科 血液・腫瘍科	原 宏 (ハラヒロシ)	整形外科	
内科 リウマチ・膠原病科	佐野 統 (サノハジメ)	脳神経外科	有田 憲生 (アリタノリオ)
内科 糖尿病科	難波 光義 (ナンバミツヨシ)	皮膚科	山西 清文 (ヤマニシキヨフミ)
内科 血栓止血・老年病科	垣下 榮三 (カキシタエイゾウ)	泌尿器科	島 博基 (シマヒロキ)
内科 肝・胆・膵科	波田 壽一 (ハダトシカズ)	産科婦人科	香山 浩二 (コウヤマコウジ)
内科 内分泌・代謝科	山本 徹也 (ヤマモトテツヤ)	眼科	三村 治 (ミムラオサム)
内科 消化器内科	三輪 洋人 (ミワヒロト)	耳鼻咽喉科	阪上 雅史 (サカガミマサフミ)
内科 消化器内科	松本 譽之 (マツモトタカユキ)	放射線科	中尾 宣夫 (ナカオノリオ)
内科 呼吸器・RCU科	中野 孝司 (ナカノ タカシ)	麻酔科	太城 力良 (タシロチカラ)
内科 神経・SCU科	芳川 浩男 (ヨシカワヒロオ)	歯科口腔外科	浦出 雅裕 (ウラデマサヒロ)
内科 腎・透析科	中西 健 (ナカニシタケシ)	リハビリテーション部	藤原 誠 (フジワラマコト)
小児科	谷澤 隆邦 (タニザワタカクニ)	精神科神経科	守田 嘉男 (モリタ ヨシオ)
第一外科	藤元 治朗 (フジモトジロウ)	救命救急センター	丸川征四郎 (マルカワセイシロウ)
第二外科	山村 武平 (ヤマムラタケヒラ)		

## 重症心不全患者様に朗報

高齢化に伴い重症の心不全患者様は増加しており、多くの患者様が有効な治療を待ち望んでおりました。これまで薬物治療中心であった重症心不全治療の新たな選択肢として心臓再同期療法(CRT: Cardiac Resynchronization Therapy)が今年4月1日より保険適用になりました。

心臓再同期療法は十分な薬物療法にもかかわらず改善のみられないQRS幅130ms以上で左室駆出率35%以下の重症な心不全を有する患者様にペースメーカを植込み、両心室を刺激することにより、心ポンプ機能を向上させ、血行動態を改善させる全く新しい治療法です。



海外ではすでに臨床経験も多く、これまで入退院を繰り返してきた患者様が自宅での日常生活が送れるまでに回復しています。

兵庫医科大学病院においても「両心室ペーシング移植術」施設基準を満たして届出が受理されており、積極的にこの治療法に取り組んでいきたいと考えております。

心臓再同期療法の検討が必要な患者様がいらっしゃいましたら、循環器内科 清水まで気軽にご相談ください。

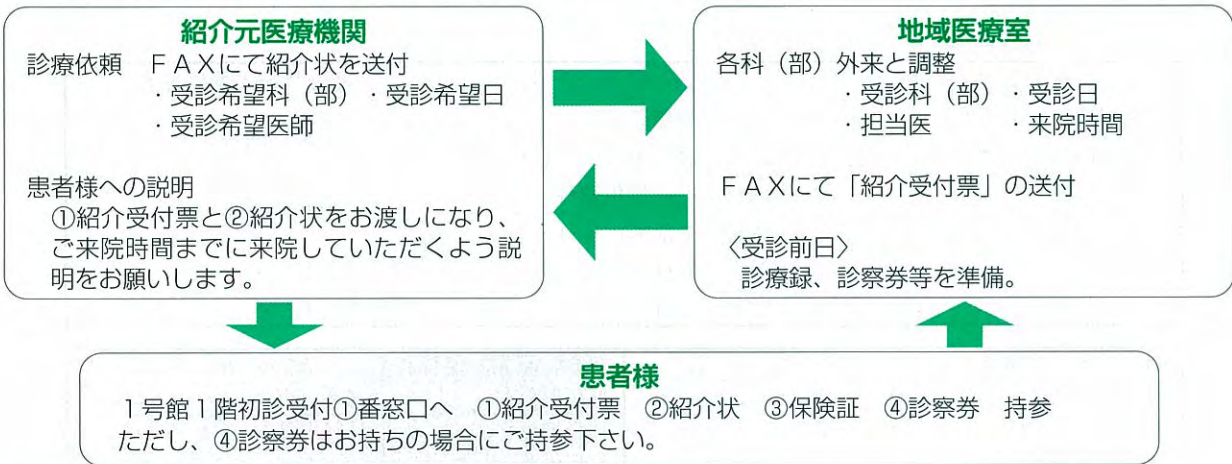
兵庫医科大学循環器内科 清水 宏紀  
Tel: 0798-45-6553(直通)  
Fax: 0798-45-6551  
E-mail: hiroki@hyo-med.ac.jp

# 地域医療室のご利用案内

電話 0798-45-6001  
FAX 0798-45-6002

予約FAX受付時間  
月～金 8:30～16:30  
土(第2・第4休診) 8:30～12:30

\* FAXは24時間受診しています。ただし、休日及び時間外にご送信いただいた場合のご予約日等のお返事は、翌診療日の受付時間内になりますので、ご了承下さい。



### 【診療情報提供書 封筒のご案内】

当院では専用の紹介状(診療情報提供書)、封筒を用意しております。郵送等をご希望される場合は、地域医療室までお気軽にご用命下さい。また、専用の紹介状はホームページからもダウンロードできますのでご利用下さい。

### 【ホームページのご案内】

当院ホームページでは、FAXによる患者様ご紹介方法、各診療科(部)の紹介、外来診察担当医一覧、外来診察担当医専門分野一覧、休診医師・代診医師のお知らせ等を掲載しています。

ホームページアドレス <http://www.hyo-med.ac.jp>

## 開放型病院共同指導料算定開始のお知らせ

当院では、「開放型病床」を5床設置し、運用を開始していますが、この度、施設基準の届出を行い、平成16年5月1日から開放型病院共同指導料を算定していただけることになりました。

当院の開放型病床をご利用されて共同診療・指導を行った場合、下記のとおり、開放型病院共同指導料が算定されますので、ぜひとも開放型病床をご利用ください。

なお、開放型病床をご利用いただく場合、事前に当院への登録が必要となります。開放型病床のご利用等に関する事は、地域医療室までお気軽にお問い合わせください。

開放型病院共同指導料(Ⅰ)	患者様一人1日につき1回	350点(220点)
	退院時指導加算	330点(430点)

### 患者様の自己負担額

	共同診療・指導1回につき	退院時指導加算算定時	
3割負担	1,050円(660円)	2,040円(1,950円)	
2割負担	700円(440円)	1,360円(1,300円)	
1割負担	350円(220円)	680円(650円)	( )内数字は兵庫医科大学病院

人事	学長就任	4月1日付	波田 壽一(ハダ トシカズ)	
	教授就任	4月1日付	中西 健(ナカニシ タケシ)	内科 腎・透析科

**編集後記**  
「地域医療連携だより」第2号をお届けします。まだまだ暗中模索の状態ですが、皆様のご協力を得て、少しずつ中身を充実させて参りますので、どうか長～い眼で温かく見守ってください。(編集委員・地域医療室一同)

◆編集・発行  
平成16年5月31日  
兵庫医科大学病院地域医療室  
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号  
TEL 0798-45-6111(大代表)  
0798-45-6001(地域医療室)  
FAX 0798-45-6002(地域医療室)